

5歳の子どもも記者、博士を訪ねる

～ 虫と恐竜の「知りたい!」を博士に取材 ～

豆記者新聞

4月30日
(木曜日)

<発行元>
蔵持市民センター
<共催>
まち図工室
まちの保健室
名張市蔵持町原出
314番地の3
TEL:0595-63-0235.
平日:9時～16時



夏休み子ども記者クラブ、半年遅れて報告。

「昆虫のことに、恐竜のことを博士に教えて貰いたい」子ども記者に手を上げてくれたのは、高島悠煌(はるき)君(5)、こども園年長組。テーマは「昆虫博士に昆虫のことを聞きたい。恐竜博士に、ステゴザウルスやトリケラトプスは子どもの時と、大人になったとき、身体の形は変わるのか?聞きたい」

上野森林公園で

で「昆虫博士」に話を聞くために8月9日、三重県上野森林公園にお母さんの裕美さんと一緒に行った。お相手してくれたのは指導員の渡辺直人さん。公園事務所のシヨールームには標本や資料がいっぱい。好奇心で気が散るが、渡辺さんに標本やアルバムを見せて貰っていると徐々に集中してきた。気分が乗って来たところで、屋外に出るとカナヘビ(とかげ)が現れた。渡辺さんが捕まえ方を教えてくれた。カブトとクワガタの幼虫の見分け方を教えてくれた。地面に穴がたくさんあいている。アリジゴクと教えられてはるき君は目を見張っていた。渡辺さんがアリジゴクの主のウスバカゲロウの幼虫を地獄から取り出して手のひらに乗せた。藤棚の下には、セミが這い出た穴がいくつか。ケヤキの樹で美しい玉虫を見つけた。大好きな昆虫の環境について、はるき君は大満足の様子であった。

MieMuで

恐竜博士にインタビューするため8月24日、津の三重県総合博物館(MieMu)に行った。ミエゾウの足形の実物展示、トバリユウ(全長16〜18m、体重31〜2ト)、ティタノザウルス類の大型草食恐竜の原寸大壁画に迎え入れられ、三重県の自然のジオラマや標本から、「おかげ参り」の総合展示など、お母さんと一緒に大いに楽しんだ。

「子ども体験展示室」では、海や山の生き物全体について、ゴミ問題も含め、すぐく学んだ。最後に恐竜博士にインタビューを申し込んだ。お相手してくれたのは学芸員の津村善博さん。トバリユウの発掘に携った恐竜のエキスパート。「恐竜は子どもの時と大人になったときは、形が変わりますか?」という質問に「恐竜の子どもは、大人の形のまま小さいので、形は変わらないです」。また「今も生きています恐竜はいますか?」の質問には「恐竜は絶滅する前から、鳥の形になっていました。鳥は恐竜の子孫と考えられます」と丁寧に答えてくれた。

お母さんから

後日お母さんからメールを頂いた。はるき君に感想を聞いたところ「上野森林公園では、アリジゴクを始めて見て、カブトとクワガタの幼虫の違いも教えて貰った。バッタもいて楽しかった」MieMuでは、恐竜は小さいときと大きくなったときと形は変わらないと教えて貰った」と、話していました。お母さんは「違う恐竜になるかどうか訊ねて、同じ種類だと教えて貰った感じで、年長組には精一杯の質面でした」。この企画が本当に楽しかったよう。「また今回のような企画があればぜひ参加させて下さい」とお返事を頂いた。

はるき君は今年から小学生。これからは生き物について学び、興味あることを一生懸命追求する充実した学校生活を送って欲しいと祈っています。

